

表彰トロフィーデザイナー紹介

アート・グラス・クラブ Art Glass Club



(左) 木下良輔氏 (右) 新田五月氏

古代からあるガラスの製法である鑄造ガラスの制作スタジオ。石膏などの型に粉碎したガラスを充填し、電気炉（kiln キルン）で焼成して作る製法はキルン・ワークとも呼ばれ、宙吹きガラスとは趣の異なったガラス作品を生み出す。

メンバーは代表の木下良輔氏を含むガラス作家 4 名。神奈川県丹沢山系の山すその町にあるスタジオで、教室の開催や、建築作品の請負制作をしながら、個々の創作活動にも意欲的に取り組み、鑄造ガラスの世界を広げるべく活動を続けている。今回のトロフィー制作の中心となった新田五月氏は、淡路島出身。震災当時は 11 歳だった。

《トロフィー制作にあたり》

このガラス製トロフィーは、一つの粘土モデルから石膏型をおこし、鑄造法を用い制作されたものです。闇の中、尊い命に差しのべられる人の手と、明日に生きるあらゆる生命力をイメージし、技法特有の温かみを持った色彩で表現いたしました。と同時に、人命救助における技術、研究システムの開発に携わる全ての皆さんに翳す「希望のたいまつ」です。

アート・グラス・クラブ代表 木下良輔